

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470200932
法人名	社会福祉法人 東北福祉会
事業所名	せんだんの杜ものうなかつやま
所在地 (電話番号)	石巻市桃生町給人町字東町96番地2 (電話) 0225-79-1601
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年6月21日

【情報提供票より】(19年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	人
職員数	人	常勤	人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名	
要介護1		名	要介護2	2	名	
要介護3	3	名	要介護4	3	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	82 歳	最低	59 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団ものうファミリークリニック、西村歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは東北福祉の小規模多機能型施設せんだんの杜ものうなかつやまの中の一つの事業所で、立地的に中津山第一小学校の南側に建てられ、事業のひとつとして放課後の学童保育も受託している。事業所は他に居宅介護支援、デイサービス、ショートステイ、ナイトケアの各事業所が併設されている。運営推進会議は以前の運営委員会から引継がれ、グループホームはこの事業所群の中で中核となっている。ホームは他の事業所と共に地域に根ざし必要な時に必要な介護をサービスが利用できるだけでなく社会資源としての役割を果たし、さらに地域福祉の発展に繋がることを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善点は介護計画情報の職員間の共有であるが記録の確認方法も検討され改善されている。また、緊急時の対応については、さらに定期的な勉強会やフォローアップ研修を続けていただきたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員がおのおの記入し、それをまとめて作られているが、さらに各自の意識の向上と気づきの掘り起こしに話し合いもしていただきたかった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は前の運営委員会会議から引継がれていて、主な討議内容は地域に対するホームのPR・防災関係で苦情・相談に関する第三者委員会も入っている。勿論ホームの外部評価結果の報告と取り組みも討議され公表されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情等の引き出しには積極的に来訪の難しい家族や身内のいない入居者に対しては知人や縁故者等から情報を得るようにして対処している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的な地域との連携が持たれていて、さりげなく地域に溶け込み入居者に関する色々の情報も入ってきている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念に基づいて、入居者それぞれが役割を持ち、家庭的な環境の中で地域家族との結びつきを重視した生活が出来るよう方針を持って支援しているが、独自の理念はない。	○	地域密着型サービスのホームとしての独自の理念を持つよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや職員の話し合いで理解され、入居者の日常生活の支援に生かされるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	普段の普通の付き合いを心掛け、地区フェスティバルや清掃活動への参加、子供110番の家としての防犯・防災訓練への参加など、近隣の人や子供たちとは馴染みになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価を書いてもらったり、それをもとに外部評価にあたるなど、評価の意義と狙いについて、全員が理解出来るよう取り組んでいる。尚、自己評価や改善点報告などについて全職員での話し合いが多くなる事を期待したい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は原則偶数月に行われ、地区の代表者がかなり入っている。会議は双方向的に問題など共有検討の場となるよう取り組まれ、外部評価の結果報告・地域とホームの情報交換が行われ、報告書も公開されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	石巻市から放課後の学童保育の委託を受けたり、地域資源の活用により、親子の読み聞かせ事業を始めたりしている。したがって自治体職員との連絡・連携も多くサービスの質の向上にもつながっている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へ来訪時の声かけ、入居者の状況報告や家族との話し合いが行われ、来訪困難な家族に対しても手紙や電話・メールなどで連絡をとっている。金銭管理についても定期的に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は無いが、運営推進会議には入っていて、意見・苦情の引き出しに努めている。重要事項説明書などでも説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は大幅な異動は行わず新しい職員については、職員同士で協力フォローし、転出した職員については連絡して来てもらったり、入居者が会いに行ったりしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の研修参加記録や目標などをファイルして振り返りの材料や今後の研修の進め方を計画している。尚、段階に応じた育成をバックアップ施設と共同で計画されているが、法人内だけでなく幅を広げた研修もお願いしたい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画作成担当者が管内のケアマネージャー情報交換会に出席しているが、同業者との交流は余りない。	○	管理者も含め幅広い交流の機会が持てるようお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前から職員が会いに行ったり、本人家族の了解を得て短期入所サービスの利用や訪問で馴染みの関係が出来るように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意分野の力を引き出す事に留意し、地域サークルの活動や畑作業・裁縫など日常生活の知らないところを教えてもらえるよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表を利用し、本人家族からの聞き取りや機会あるごとの話し合いで得た情報を検討し、希望や意向の把握に努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成担当者のケアプランをもとに本人家族・職員の間で話し合い、さらに検討して出来た介護計画書を家族に渡し説明して同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い、入居者の変化に応じて、本人・家族・職員で話し合い介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、その時々要望に応え、通院、外出等必要な支援を行うと共に、近隣の方達の要望にも応えて施設を開放し、満足が得られるように配慮している。		
立場					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回は協力医院の医師に往診してもらい、協力医院でない入居者のかかりつけ医についても、家族と相談のうえ、受診に同行し適切な医療が受けられよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応を早期から家族と話し合い支援している。入居者の状況を主治医に聞いてもらったり、連絡をとったりして家族の気持ちの変化にも対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや差恥心に配慮したケアを行い、個人情報の取り扱いについても同意書を貰って対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切に、リスクに配慮しながら楽しみ事や生活習慣、畑の水かけや調理の手伝い食事の後片付けなどの役割分担も安全に継続していけるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しく出来るよう入居者の好みや苦手に配慮して一緒に献立を考え、食材の買出しや調理・後片付けも一緒に行っている。食事中はさりげないサポートでなごやかな雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む人に対しては職員の連携プレイで対応している。体調や気分に合わせて入浴できるよう配慮しているが、職員との兼ね合いで時間的に片寄ることがある。	○	夜間も含め入浴できる時間帯の幅が広がるようにお願いしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ごく自然に役割や楽しみごとなど見付ける支援がされていて、植木や畑の手入れ、草取り、家事仕事や家族との一緒にの食事、地域活動への参加、友人との交流、さらに小学校の子供が行う玉入れの布の玉作りなどが行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換をかねた色々の物品の買出しやドライブ、さらに書店に行って本を買いたいという希望などに沿って職員も一緒に外出できるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、日中は鍵をかけずサッシ戸・網戸も開放している。また散歩などで入居者が外出している時などは、近隣の方達から色々の連絡が入り、地域とも良好な関係が出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議でも議題として取り上げられ、消防署々員を講師として心肺蘇生方法や搬送方法を地域住民の人たちと一緒に受講したりしている。非常用食料や備品も用意されている。災害時の訓練は計画を作り定期的に行っているが住民の参加はない。	○	災害時の訓練を地域住民の人たちに一緒に参加協力していただけるよう、いっそうの努力をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の摂取量などが全職員で把握できるよう必要に応じてチェック表を記入し、栄養士の助言や記録として撮った写真を参考に入居者一人ひとりの状態に合わせバランス・調理方法を工夫して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の明るさは良く、台所も対面式で食事の支度の様子も分かるし、居間から見える外の景色だけでも十分季節が感じられる。会話やテレビの音も静かで換気も良くおこなわれている。共用空間は廊下玄関も含め全体に落ち着いてゆっくり居心地よく過ごせる空間となるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を出来るだけ持ってきてもらい本人が居心地よく過ごせる雰囲気のある居室になるよう支援しているが、殺風景な居室も見られる。	○	入居者によっては殺風景な居室の人も居るので日々のケアで築かれた信頼関係をいかし、居心地の良い雰囲気の居室となるように工夫と努力をお願いしたい。